

The Council of College English Teachers
 全国高等専門学校英語教育学会
 第31回研究大会プログラム

期日：平成19年8月31日（金）～9月2日（日）
 会場：京大会館（〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9）
 主催：全国高等専門学校英語教育学会（COCET）

1. 日程概略

● 第1日 8月31日（金）

15:00～17:00 理事会

● 第2日 9月1日（土）

11:30 ～	12:30 ～ 13:00	13:10 ～ 14:20	14:20 ～ 14:40	14:50～17:50					18:10 ～
受 付	総 会	特 別 講 演	写 真 撮 影	研究発表 I					親 睦 会
				①	③	⑤	⑦	⑨	
				②	④	⑥	⑧	⑩	

● 第3日 9月2日（日）

9:30～11:55				11:55 ～ 13:00	13:00 ～ 14:30	14:30
研究発表 II				昼 休 み	フォーラム (3テーマ) 意見交換会	閉 会 挨拶
⑪	⑬	⑮	⑰			
⑫	⑭	⑯	⑱			

会場配置

- 101号室 総会・特別講演・研究発表・フォーラム・意見交換会
- 102号室 賛助会員展示
- 103号室 研究発表

2. 研究発表時程詳細

9月1日(土)		101号室	103号室
	13:10~14:20	特別講演「実社会が求める英語力」-- 使える英語習得への第一歩 -- 講師：千田潤一先生（英語トレーニングスクールICC代表取締役）（101号室）	
研究発表 I	14:50~15:20	① 木更津高専における「特別研究」の指導例 荒木英彦（木更津高専）	② A.C.E.とB.A.C.E.のテスト結果から 見えてくるもの 松尾・大里・森下・石貫（佐世保高専）
	15:25~15:55	③ 専攻科生の特別研究英語プレゼンテーション指導の効果 奥崎真理子（函館高専）	④ 発想法と表現法の関係における日英語間のギャップに対する意識昂揚が英作文指導に及ぼす効果 永井誠（東京都立産業技術高専）
	16:00~16:30	⑤ 動名詞の用法について 佐渡一邦（新居浜高専）	⑥ The Role of the English Teacher in Implementing, Managing and Evaluating Overseas Study Programmes: Case Study - One-month Intensive English Programme for the Advanced Course Students Cooper Todd, 浅原京子（富山商船高専）
	16:45~17:15	⑦ 英語習熟度とリーディング時の眼球運動 西山正秋（神戸市立高専）	⑧ ドライサーの「ロゴーム老人とその娘テレサ」における父娘の葛藤 小澤健志（木更津高専）
	17:20~17:50	⑨ 英単語学習の実態—沼津高専1年生への質問紙調査から 種村俊介（沼津高専）	⑩ An Attempt of Developing Activities for Intercultural Understanding 室井美稚子（木更津高専）
9月2日(日)		101号室	103号室
研究発表 II	09:30~10:00	⑪ Speaking Test とその効果について 白田悦之（函館高専）	⑫ オーセンティック教材を使った「聞きながら読み」によるリーディング指導—実践とその効果— 相澤俊行（東京高専）
	10:05~10:35	⑬ オンライン論文データベースを利用した英文アブストラクトの作成指導 柴田純子（岐阜高専・非常勤）	⑭ 英語学習法としての音読と筆写 久保田佳克（仙台電波高専）
	10:50~11:20	⑮ Moodle を利用した小テストシステムの導入 塩谷三徳（沼津高専）	⑯ リスニング指導における学習方法の違いが与える影響について 瀬川直美（福井高専）
	12:25~11:55	⑰ 高専生のための後置修飾を持つ名詞句データベースの作成 森和憲（詫間電波）	⑱ 英会話テキスト使用についての研究 竹内春樹（近畿大学工業高専）
	13:00~14:30	フォーラム（テーマ①多読 ②プレコン ③COCET3300）・意見交換会	
	14:30	閉会挨拶（101号室）	

3. 研究発表要旨

① 木更津高専では人文学系と基礎学系が協力して3年次に授業科目として「特別研究」を実施している。現在では本校の特色ある授業のひとつとして定着している。木更津高専の今までの取り組みと、発表者の平成17～19年度の実践（研究テーマ：「海外ドキュメンタリーに学ぶ欧米人の考え方・生き方」「『アルプスの少女ハイジ』とその仲間たち」）について報告する。

② 佐世保高専では、入学時の学生の英語力を測定するために2004年度からB.A.C.E（英語運用能力評価協会）を、3年次終了時付近の英語能力を測定するために2005年度からA.C.E.（英語運用能力評価協会）を導入している。昨年度の3年生が、B.A.C.E.を1年次に、A.C.E.を3年次にと、双方を受験した最初の学年になった。昨年度3年生の学生の試験データより、B.A.C.EとA.C.E.の結果には相関があるのかどうかを測ってみた。その結果を基に考察を加えたものを発表する予定である。

③ 本研究は、去年からの継続研究として函館高専専攻科2年生2名（環境システム1名、生産システム1名）を対象に特別研究の英語プレゼンテーション指導を実施し、実際に海外でプレゼンテーションを試行し、海外の評価をもとに指導プロセスの有効性を比較検証することを目的とした。海外の高等教育機関の教員による専攻科生の英語プレゼンテーションの評価結果を基に、英語プレゼンテーションの指導効果を明らかにする。

④ 英語で発話する際に、英語の発想法に基づいて自分の頭の中にある「意味」を整理し、英語の統語構造に当てはめて英文を構築し、即座にそれを発することが出来れば、それは理想的と言える。しかしながら、大多数の日本語話者にとって日本語の発想法の縛りから逃れるのはかなり困難である。本研究では、発話の際に日本語の発想法と英語の発想法のギャップに敢えて学習者の意識を向けさせることの効果を探る。

⑤ 英語の動詞を名詞化する文法規則がいくつか存在する中で特徴的なのは同じ動詞に関して接辞付加による名詞化（たとえば - ment - al - ion など）と動名詞（- ing 形）の両方の形が存在することである。機能文法においてHallidayはこのように本来「過程」は動詞であらわされるべきものが「事物」を表すべき名詞で表されることを文法的比喩と呼ぶ。文法的比喩をめぐって両者のはたらきの違いをコーパスをもとに比較する。

⑥ Many National Colleges of Technology have long benefited from the personal decision by students to travel overseas by themselves to improve their English ability and broaden their cultural awareness. This is often done through third-party services, therefore the college's involvement is minimal. Unfortunately these third-party programmes were found unsuitable for our students in the Advanced Course, which created a need for our college to develop and implement its own. The implementation of our college's own overseas study programme presented a number of challenges such as: the low English level of students, locating the appropriate school, coordinating with the teachers at the host school, providing orientation and guidance for the students, and so on. In this report, we would like to share our methods and experiences in starting up and carrying out such a programme with particular emphasis on the role of the English teacher.

⑦ リーディング時の眼球運動は、連続的でなめらかな動きではなく、文章の1点を注視（停留）してから次の注視点へとすばやく跳躍する（サッカード）、ことが知られている。その際の停留位置や停留時間は、nativeと英語学習者では異なっている。また、英語学習者の中でも、習熟度によって異なったパターンが現れる。このパターンを解析することによって、英語学習者の心的処理過程の解明につながると期待できる。

⑧ ドライサーの「ロゴーム老人とその娘テレサ」は、自伝的な要素を強く含む短編であるとされている。しかし、自分自身の体験に基づくものであるとしても、文学作品として、その設定等において種々の工夫がなされている。例えば、この作品の舞台はニューヨークであり、彼の生まれ育ったインディアナ州ではない。世紀転換期において新たな価値観が生まれつつある大都会で、どのような父と娘の葛藤が描かれているのか、検証を試みたい。

⑨ 沼津高専英語科では平成17年度から市販の単語集を基にした「統一単語テスト」と「小テスト」を1・2年生対象に実施し、今年で3年目を迎える。本発表では、平成18年度の末に1年生165名を対象に行なった単語学習に関

する質問紙調査の結果を基に、学習者の単語集による英単語学習と英単語学習全体についての実態を報告する。さらに、その調査結果を踏まえ、今後の単語集による語彙指導のあり方や語彙指導そのもののあり方を検討する。

⑩ This school year I am in charge of the class for Intercultural Understanding. An approach based on activities would be effective for the beginner students in this area to understand its concepts. In order to have the students enjoy the diversity of the world, I am trying to develop and create activities for multi-cultural understandings and global education that are appropriate for our students' language competence and cultural interest. It will be a good opportunity to share some ideas of material culture and non-material culture.

⑪ 「英語コミュニケーション」授業の評価の一部として、Speaking Testを年4回実施した。各テストにおける学生の反応をアンケート形式で追っていき、Speaking Testをどのように受け止めているかを調査した。その結果、情意面ではSpeaking Testを好意的にとらえている学生が多かった。しかし、Competenceの面では評価者が期待した通りの効果があったとは言い難い。発表では、それぞれのテスト方法とアンケート結果を、考察をまじえて報告する。

⑫ 高専1年生を対象にペーパーバック Tuesdays with Morrieを半年間に渡り、自主制作副教材も使い語句の理解を図りながら、「聞きながら読み(reading-while-listening)」により指導してきた。本調査では、「聞きながら読み」による指導がリスニングとリーディング理解に及ぼす効果を測定する。高専低学年における英語指導の高度化と高速化の可能性を検討したい。

⑬ オンライン論文データベースは、研究資料としてだけでなく、論文執筆に有益な英語表現のデータベースとしても活用が可能である。本研究では、学生の卒業研究論文の英文アブストラクト作成指導を取り上げ、論文データベースを利用した指導方法を検討し、実施した。この方法は、一斉授業においても、学生の様々な研究分野への対応が可能とした。また、学生のアブストラクトには、論文らしい英語表現が多く使用されるようになった。

⑭ 「音読」と「筆写」は古くから行われてきた英語学習法であるが、近年になって、再び日本人にあった学習法として、その効果が見直されてきている。しかし、限られた授業時間の中では、これらの活動を十分に行うことは難しい。本研究では、先行研究を踏まえ、授業時間内に行う活動としての「音読」と「筆写」の効果を比較検証する。そして、一連の授業の流れの中で、どのようにこれらの活動を導入していくかを提案したい。

⑮ 昨年度、発表者を含む校内のe-learning推進委員の共同で作成した、学内限定の問題演習システム(web教材)について紹介する。沼津高専では、1, 2年の授業で、桐原書店が無償で配布している問題作成ソフトウェア「TestMaker」を利用した単語小テストを実施している。そこで、桐原書店と著作権についての契約を交わし、「TestMaker」から出力されるMS-Word形式のデータをMoodle XMLに変換してweb教材用のデータとして流用した。

⑯ 本研究は、リスニングの指導において異なる学習方法を実践した結果、それぞれの学習者にどのような影響があったかを検証した報告である。対象としたのは福井高専の1年生全員(5クラス)で、期間は後期の約2ヶ月間(全8回の指導)である。3回のテスト結果から、学習方法の違いが与える影響や効果を検証するとともに、学習者へのアンケート調査からも、学習意欲などへの影響、またそれぞれの学習者に見られる傾向などを分析した結果を報告する。

⑰ 本発表の目的は、高専独自の英語教材を作り上げる総合的な研究の一環として、高専における英語教育に特化した教材作成の素材となる、後置修飾を伴う名詞句データベースの作成について論じることにある。当データベースには、『COCET3300』と理工系学生のために独自に編纂したコーパス『TACMAS 2』を使用して集められた9502例の名詞句が登録されている。本発表では、当データベースの構築方法について、教材開発の観点から論じていきたい。

⑱ 高専低学年で英会話の授業を行うことについて、学生はどのように考えているのかを、教科書の違いという観点から、明らかにする。勤務校では従来の検定教科書(英語IIやReading)に代わって、外国の出版社による英会話テキストを使用している。この2種類の教科書について、学生に対しアンケート調査を行ない、好みを明らかにするとともに、高専の学生に望まれる英語の学力とはいったい何なのか、また低学年での英語教育はどうあるべきか考察する。